

事業名称	就学前の子どもたちにアートの楽しさを届けるプロジェクト		
実行委員会	徳島の公立美術館と就学前施設との連携事業実行委員会		
中核館	徳島県立近代美術館 [トクシマケンリツキンダイビジュツカン]		
	住所	〒〒770 -8070 徳島県徳島市八万町向寺山 文化の森総合公園	
	TEL	088-668-1088	FAX 088-668-7198
	ホームページ	<a href="https://art.tokushima-ec.ed.jp//">https://art.tokushima-ec.ed.jp//</a>	
構成団体	徳島県立近代美術館、那賀町立相生森林美術館、徳島市立保育所保育士・認定こども園保育教諭会		
事業開始時点の課題分析	<p>本事業の中核館となる徳島県立近代美術館は、1990年の開館以来、学校教育との連携事業に力を入れてきました。2002年度からは、地域の教員と連携して教材開発を行い、小学校低学年を含む各学年に応じたプログラムで、展覧会案内や出前授業に取り組んでいます。2010年度には美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業で、「学校と連携した鑑賞授業カリキュラムの開発と普及」に助成をいただき、活動を発展させてきたところです。</p> <p>2012年からは、その活動を保育所や幼稚園など、就学前施設との連携に広がっています。1年目は一つの保育所との連携から出発しましたが、2017年度は、就学前施設による39回の見学、58回の出前授業を行うまでになっています。2016年には、第60回全国保育研究大会（徳島大会）の第8分科会参加者の有志を対象に徳島県立近代美術館で研修会を開き、活動内容を全国に発信しました。そのような5年間の活動により、美術館を軸にした就学前児童のアートを楽しむ活動は、内容と参加者の両面で広がってきたといえます。</p> <p>今後は、これまでの活動を踏まえつつ、次の3つの課題に取り組む必要があると考えています。活動の成果を、中核館のある徳島市を中心とした範囲だけでなく、県内のより広い範囲の就学前施設にも知ってもらえるようにする。これまで活動を牽引していた保育所の所長が退職の時期を迎えているため、世代交代をはかる。就学前の子どもたちを対象とした活動を、小学校低学年との連続のなかで捉えることができるようにする。</p>		
事業目的	<p>県内のより多くの保育士・幼稚園教員が、美術館との連携事業に参加してみたい、「やってみたい」という思える機会を広げつつ、そのための条件整備を行うのが本事業の目的です。徳島県立近代美術館では、就学前の幼児が、美術館で楽しく鑑賞する経験を蓄積していて、4、5歳の子どものだけでなく、1歳でも楽しめるプログラムをつくり実践してきました。経験のない保育士等は、「むずかしい」と感じる人が多いのですが、子どもが楽しむ姿を見て、何度か継続して子どもが成長するようすを知ることが大切です。鑑賞だけでなく、制作とつながるプログラムも共有化することで、継続して美術館との連携に参加してもらえるようにしたいと考えています。そのような観点から、本事業の目的を3つに整理しました。</p> <p>(1) こどもがアートの楽しさを実感する機会を広げる - 県内のもう一つの公立美術館、那賀町立相生森林美術館が位置する県南部を含め、展覧会見学や出前授業など美術館と就学前施設との連携を広げていきます。</p>		

	<p>(2) プログラム等の公開等の環境整備 - 蓄積されてきたプログラムや方法に、保育士や幼稚園教員が容易くアクセスできるようにします。</p> <p>(3) 継承と次の展開に関する検討-美術館がはたしてきた連携のプラットフォーム的役割を維持しつつ、保育士や幼稚園教員が相談し合えるシステムをつくります。また、就学前と小学校低学年へとつながる連携の方策を探ります。</p>
事業概要	<p>事業目的 (1) 「こどもがアートの楽しさを実感する機会を広げる」に関する点では、美術館職員が出前授業を行ったり、保育所や幼稚園の美術館見学を受け入れたりする活動を広げていきます。そのなかでも、美術館から離れた就学前施設が参加できるよう、貸し切りバスを利用して見学ができるようにします。</p> <p>事業目的 (2) 「プログラム等の公開等の環境整備」については、徳島県立近代美術館のホームページに保育所・幼稚園のページを設け、これまで蓄積されてきた経験やプログラムをアップし、誰もが閲覧できるようにします。また、より詳しくまとめた冊子を発行し、県内の就学前施設、全国の美術館等関係機関に送付します。(全国保育研究大会〔2016年〕の折り、全国から集まった保育士から情報発信を依頼する声が寄せられました。美術館と保育所の連携について就学前施設に届く情報は少ないため、全国的にも役割を果たすことができるのではないかと考えています。)</p> <p>事業目的 (3) 「継承と次の展開に関する検討」については、勉強会を充実させる他、保育士や幼稚園教員の横のつながりをつくり、アートを楽しむ活動の経験を若い世代に伝えることができる組織づくりを目指します。また、シンポジウムを開き、大学の研究者と連携することで、就学前と小学校低学年とつながる連携や次の展開の方策を検討する議論を活性化させます。</p>
実施項目 ・ 実施体系	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</li> <li>□イ ユニークベニューの促進</li> <li>□ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</li> <li>□エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</li> </ul> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</li> <li>□イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</li> <li>□ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</li> <li>□エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</li> </ul> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</li> <li>□イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</li> </ul>

実施後の  
成果・効果等

事業目的の(1)「こどもがアートの楽しさを実感する機会を広げる」に関する点では、はじめて美術館見学やワークショップを行ったり、今まで以上に密接に連携したりする就学前施設が増えています。貸し切りバスを利用することで、美術館と連携する就学前施設が、阿南市、吉野川市、那賀町のように徳島市以外の施設に広がりました。貸し切りバスを利用した見学と案内は、13回、15施設、参加者数は計408名。そのほとんどが、はじめて美術館での鑑賞プログラムに参加した子どもたちです。

それ以外の見学や出前授業を含めると、助成対象期間の実施回数は78回、2,500名近い参加者数を得ることができました。また、本事業を幅広く広報したことで、今まで美術館とのつながりが弱かった幼稚園とも連携をつくることができました。

事業目的(2)「プログラム等の公開等の環境整備」については、活動の報告書『保育所・幼稚園・こども園の子どもたちと美術館(『「アートの日」の本)』)を刊行するとともに、ウェブサイト「アートの日」を開設したことで、これまで蓄積されてきた経験やプログラムが容易く参照できるようになりました。

なお、『「アートの日」の本』は、県内のすべての保育所、幼稚園、認定こども園と県内外の図書館や関係機関など、約1,000カ所に送付。ウェブサイトでは、今後、『「アートの日」の本』の内容を順次公開し、新しい記事や情報も更新していく予定です。

事業目的(3)「継承と次の展開に関する検討」については、研修会・勉強会、シンポジウムを合計8回開催し、182名の参加を得ました。資料として添付したアンケートや成果物として添付した『「アートの日」の本』(pp.122-127)から、先生方が楽しんで鑑賞や制作を行っていることが分かります。そのような体験が、それぞれの就学前施設での実践につながっており、美術館職員が出前授業に行かない日の実践を含めて、アートの実践を展開する例も生まれています(例えば『「アートの日」の本』pp.116-119)。研修会・勉強会では、若い保育士さん、教諭の方々の参加もみられ、世代をつなぐ交流の場となってきました。

事業全体にいえることですが、「おしゃべり鑑賞」を交えた鑑賞プログラム(成果物『「アートの日」の本』pp.23-50)などで触れた子どもたちの姿が保育士や教員を刺激し、次の見学や制作につながってきました。そして、研修会・勉強会、実行委員会の会議(2回)、『「アートの日」の本』の編集会議(6回)を行うことで、保育士、保育教諭、幼稚園教諭の交流が進み、美術館側が次に展望している小学校と就学前施設の連携について、その必要性も話し合われるようになってきました。そのような成果を次年度以降の活動に活かしたいと考えています。

(詳しい活動内容とデータは、成果物として添付した『「アートの日」の本』(pp.196-207)をご参照ください。なお、同書の参加者数等のデータは、平成30年4月1日から平成31年3月8日までのものです。補助事業実施期間のデータは、次ページをご覧ください。)

## 【事業実績】

### ■ 展覧会見学の案内と出前授業[平成30年7月2日～平成31年3月31日]

#### ① 展覧会見学(貸し切りバス利用)

13回、15施設 (徳島県立近代美術館 7回、相生森林美術館 6回)

参加者数 計 408名 (幼児 336名、保育士・教諭 65名、保護者 7名)

#### ② 展覧会見学等(貸し切りバス利用以外)

40回、20施設

参加者数 計 1,355名 (幼児 1,141名、保育士・教諭 169名、保護者 45名)

#### ③ 出前授業

25回、13施設

参加者数 計 680名 (幼児 585名、保育士・教諭 76名、保護者 19名)

合計 78回、35施設、参加者数 2,443名

### ■ 研修会・勉強会・シンポジウム

研修会・勉強会 7回、参加者数 115名

シンポジウム 1回、参加者数 67名

合計 8回、参加者数 182名

### ■ ウェブサイト「アートの日」の開設

<https://art.tokushima-ec.ed.jp/artnohi/>

### ■ 『保育所・幼稚園・こども園の子どもたちと美術館(『「アートの日」の本』)の刊行

平成31年3月25日刊行、部数 1,300部

送付先 959カ所(メール便)、他は手渡し配布と予備。

### 【事業実績の参考資料(添付)】 - 記録写真他

- ・美術館見学(貸し切りバス利用)
- ・展覧会見学等(貸し切りバス利用以外)
- ・「アートの日」勉強会
- ・就学前の子どもたちにアートの楽しさを届けるシンポジウム

## 就学前の子どもたちにアートの楽しさを届けるプロジェクト 美術館見学(貸し切りバス利用)

### 1 論田ひまわり保育園

2018年10月3日[水] 9:30-11:30

徳島県立近代美術館 4-5歳児 33名 保育士 4名



論田ひまわり保育園(徳近美)

### 2 那賀町立あいおいこども園

2018年10月23日[火] 9:30-10:30

相生森林美術館 5歳児 24名 保育教諭 4名



あいおいこども園(森林美)

### 3 吉野川市立牛島幼稚園

2018年11月2日[金]9:45-10:50

徳島県立近代美術館 4-5歳児 18名 教諭 3名

### 4 那賀町立ひらだにこども園、那賀町立きとうこども園

2018年11月2日[金] 9:30-11:30

相生森林美術館 1-5歳児 14名 保育教諭 6名

### 5 吉野川市立鴨島幼稚園

2018年11月8日[木] 10:00-11:15

徳島県立近代美術館 3-5歳児 44名 教諭 7名



牛島幼稚園(徳近美)

### 6 阿南市立大野幼稚園

2018年11月14日[水]10:00-11:00

相生森林美術館 4-5歳児 29名 教諭 9名

### 7 那賀町立わじきこども園

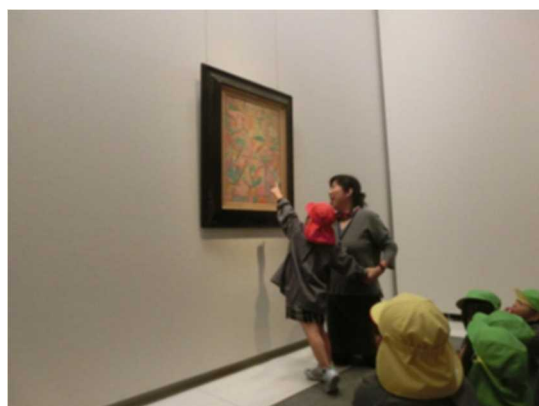
2018年11月20日[火] 9:30-10:30

相生森林美術館 5歳児 16名 保育教諭 4名

### 8 阿南市立福井保育所

2018年11月22日[火] 10:00-11:00

徳島県立近代美術館 3-5歳児 27名 保育士 5名



鴨島幼稚園(徳近美)

9 阿南市立桑野保育所

2018年11月30日[金]10:00-11:00

徳島県立近代美術館 5歳児24名 保育士4名



桑野保育所(徳近美)

10 徳島市立八万東保育所、徳島市立八万保育所

2019年1月10日[木]12:00-14:00

相生森林美術館 5歳児38名 保育士8名

11 徳島大学あゆみの森保育所

2019年1月11日[金]9:35-10:40

徳島県立近代美術館 3-5歳児46名 保育士5名



八万・八万東保育所【森林美】

12 徳島市立沖洲保育所

2019年1月17日[木]9:30-10:40

徳島県立近代美術館 5歳児16名 保育士3名

13 阿南市立宝田幼稚園(親子鑑賞会)

2019年1月18日[金]9:30-10:40

相生森林美術館 4歳児7名 教諭3名  
保護者7名



沖洲保育所(徳近美)

全13件(15施設)

幼児336名 保育士・教諭・保護者72名 / 合計408名

\*貸し切りバスの利用は応募多数(30件)のため抽選となった。

\*那賀町内の施設による相生森林美術館見学は、町所有のマイクロバスを利用した。

感想等(一部抜粋)

- ・子どもたちにとってアートの楽しさを実感する貴重な機会となった。
- ・作品を見て大人では想像できないような発見をしたり、製作活動では、いろいろと浮き出てくる模様に興味を示したり意欲的に活動していた姿が印象に残った。
- ・一つの絵や作品から、それぞれの思いがあんなにたくさん出てきたことに驚いた。
- ・美術館＝大人向けというイメージがあったが、こんなにも子どもたちが興味・関心を示すと は正直思っておらずびっくりした。

- ・年齢が小さい子(1歳児)には鑑賞活動は無理かと思う。触らない等の規制されることが多く「だめ」と言うことも多かった。理解ができる大きい子と今度は行ってみたい。
- ・自分の言ったことがすべて受け入れられたときの幼児の笑顔と全員が好きな絵や色があったことは、教師にとってうれしかった。また、美術館のマナーも学ぶことができた。
- ・幼児は、こういった機会がなければ美術館に行くことはほとんどないと思われる。40分という短い時間だったが、日頃味わうことのない40分間だったと思われる。

相生森林美術館での様子



徳島県立近代美術館での様子



就学前の子どもたちにアートの楽しさを届けるプロジェクト  
展覧会見学等（貸し切りバス利用以外）

徳島市

おおぎ認定こども園

2018年10月30日、31日、2019年3月8日

セサミ山城保育園

2018年8月2日、23日

とくしま健祥会保育園

2018年8月2日、9月11日、19日、12月4日

2019年3月6日

徳島市立八万保育所（10月10日）展示室で



徳島市立内町保育所

2018年10月25日

徳島市立加茂名保育所

2018年8月28日、2019年2月27日

徳島市立北井上認定こども園

2018年8月31日

徳島市立桑野保育所

2018年11月28日



徳島市立八万保育所（10月10日）アトリエで

徳島市立城西保育所

2018年7月26日、31日

徳島市立八万東保育所

2018年8月30日、2019年2月15日

徳島市立八万保育所

2018年7月18日、19日、10月10日、12月6日

2019年2月14日、3月7日



とくしま健祥会保育園（2018年12月4日）

徳島市立八万南幼稚園

2018年12月12日

徳島市立八万幼稚園

2018年11月20日



徳島市立名東保育所 2018年8月1日

鳴門教育大学附属幼稚園 2018年10月27日

みつぼしこどもえん 2018年7月24日、8月21日、10月17日、23日、24日

もとしろ認定こども園 2019年3月20日

小松島市

かもめ保育園 2018年7月27日



阿南市

阿南市立大野幼稚園 2018年11月1日

阿波市

阿波市立柿原幼稚園 2018年10月11日

名東郡

佐那河内村立佐那河内保育園 2018年7月27日、10月19日

## 出前授業

徳島市

おおぎ認定こども園 2018年7月9日、2019年2月1日

とくしま健祥会保育園 2018年7月4日、10月29日、  
2019年1月23日

徳島市立内町保育所 2018年7月17日、12月12日

徳島市立加茂名保育所 2018年10月18日、2019年1月22日

徳島市立城西保育所 2019年3月5日

徳島市立八万保育所 9月13日、11月1日、2019年1月17日

徳島市立八万幼稚園 2018年11月15日

徳島市立名東保育所 2019年1月29日



徳島市立明善保育所 2018年10月16日、2019年1月9日

みつぼしこどもえん 2018年8月29日、2019年2月9日

もとしろ認定こども園 2019年1月31日

板野郡

まつしげ保育所 2018年9月14日、12月5日、2019年2月19日

## 美術館見学アンケートから

- 毎年、子どもたちがどんな反応、どんな関心を持って参加できるか少し不安(触ってしまわないかなど)
- 子どもたちにとっては少し難しい作品かなと感じながら観始めたが、絵の前でじっくり観ることで素直な感想を次々と発表することができていた。絵から「風の音」「鳥の声」「桜の散る音」「おもちのにおい」「葉っぱのゆれる音」など子どもたちならではの言葉が次々出ていた。そのあと行ったぬりえも、絵を観たあとだったのでたくさんの色を使うことができていた。
- 見学後の鳥のぬりえがとても素敵で各クラスで一つの作品にしよう！ということで木にとまっている鳥を表現したり、文化の森公園で拾ったドングリやイチョウの葉で絵を額縁風に表現してみました。また、写真を送りますね。

## 出前授業アンケートから

- 6枚のいろいろな絵をみてまわり、その中から1番気に入った絵を選んだ。どういうところが気に入ったのか一人一人発表し、お互いに話を聞いた。「顔はサイコロで身体はトランプがくっついている。足はつながっていない。これは人間?」「流れ星がきれい。宇宙人みたい。」「猫がおる。魚がおって見てる。」等様々なつぶやきが聞かれた。

(保育所はびじゅつかん)

- 墨絵を鑑賞することで、有名な作品も子どもたちの素直な感想で、身近なものになっていた。鑑賞のあと、墨を硯でする体験では、「もっと、硬いかと思った」「ぬるぬるしとる!!」など初めての感触は素直な気持ちがどンドン出ていた。にじみ絵では、思っていたよりも積極的に自由に絵や模様を次々と描くことができていたので、意外だった。

(墨であそぼうー墨絵の鑑賞とお絵かき)

## 研修会 音楽と美術と子どもたち

### ー領域「表現」の教科横断的な活動とその基盤としての「身体」

美術鑑賞や造形活動と音楽や身体表現が結びつくことでひろがるアートの楽しさを体験し、保育や授業に活かせるようにすることを目標に研修会を開催した。

午前は、公開保育（とくしま健祥会保育園の協力を得て、音楽を聴いて感じたことを色や形で表現する活動）の参観と授業研究会を行った。午後からの研究協議では公開保育と同じ内容を体験し、教科横断的な活動について研究協議を行った。

研修Ⅰ【日時】 2018年9月8日[土] 10:00～12:00

【講師】 高木夏奈子〔植草学園大学 准教授〕

【会場】 とくしま健祥会保育園 【参加者数】 15名 【園児】 5歳児 27名

研修Ⅱ【日時】 2018年9月8日[土] 14:00～17:00

【講師】 高木夏奈子〔植草学園大学 准教授〕

【会場】 徳島県立近代美術館 アトリエ 【参加者数】 12名

参加者のアンケートから（抜粋）

- ・音楽を聴いての表現、これは実際に体験してみないとわからないことだと感じた。
- ・その子なりの表現に、正解も不正解もないという考え方は人権保育にも通じると思うので、今日の取り組みを現場の職員と共有したい。
- ・音楽が得意な子、製作が得意な子それぞれが得意なことをいかして表現を楽しんでいた。



公開保育の様子音楽にあわせて  
身体を動かしている様子

音楽からイメージしたことを色や形で表現



子どもが何を表現したか説明しているところ

授業研究会（活動の振り返り）

## 「アートの日」勉強会

### 新聞紙で遊ぼう

日時 2018年8月30日 18:30-20:45

会場 徳島県立近代美術館ギャラリー

参加者数 23名

内容 チームに分かれて、新聞紙とセロテープでタワーをつかった。チームに分かれて、一番高いタワーをつくらうと競争したが、一番にならなかったタワーにも楽しい「賞」を考えて、プレゼントした。

感想

- 童心に帰り夢中になったことで、改めて子どもの思いや気持ちに近づけた気がした。「楽しい」ってこういうことですね。
- 考えを出し合って一つのものを作り上げる過程の楽しさや達成感を味わうことができた。
- チームにより、人それぞれに見事に違ったものができる面白さを感じた。
- 「新聞紙でタワーを作る」簡単なテーマだと思ったが、奥が深く、たくさん気づきが隠れていて子どもたちにこの気持ちをぜひ味わってもらいたいと思った。
- 楽しかったし、協力し合うことの大切さを実感できた。自由な発想で仲間とアイデアを出し合い夢中になって遊ぶ楽しさを、日々の保育の中で子供たちにもたくさん経験させてあげたい。



### ナイト・ミュージアム研修会 I

日時 2018年9月20日 18:30-20:45

会場 徳島県立近代美術館 展示室3

講師 森 芳功（徳島県立近代美術館 学芸交流課長）

参加者数 14名

内容 「日下八光日本画展」の会場で鑑賞の研修会を行った。展示作品の中から自分のお気に入りの作品を見つけてお互いに教え合ったり、「あたたかいで賞」「いいにおいで賞」「ふわふわで賞」などの少し変わった賞にぴったりの作品を探したりした。終わりに、展覧会担当学芸員から画家のこと、作品のことなどについて話を聞いた。

感想

- 日下八光さんのことを初めて知り、たくさんの素晴らしい作品を拝見できてよかった。いろいろな方の感じ方、捉え方を知り、そのことを素直に受け止める大切さを実感した。
- どんな見方、意見でも受け入れてくれる環境だと、自分の思いを素直に発言できるし相手の考えもしっかり聞くことができる。絵を見る時だけでなく多くの場面でもそうなので意識していきたい。



## 墨であそぼう

日時 2018年11月16日 18:30-20:30

会場 徳島県立近代美術館 アトリエ

参加者数 16名

内容 学芸員から、墨や紙についての話を聞いた後、実際に硯で墨を磨って、にじみ模様を作ったり墨絵を描いたりした。子どもたちとの活動についてもご紹介した。

感想

- 墨にも色があり、濃淡を出すことでアートになる面白さを実感した。
- 墨というと字を書くイメージがあり、あまり楽しい記憶がなかったが、今日の勉強会で墨に触れいい経験になった。墨でのアートの実験中は夢中であつという間に時間がたってしまった。



## ナイト・ミュージアム研修会Ⅱ

日時 2019年1月11日 18:30-20:30

会場 徳島県立近代美術館 展示室3 参加者数 12名

内容 「ユニバーサル展」を見学し、幼児や子ども連れの家族が安心して楽しくすごせる美術館にしていくにはどうすればいいか、参加者のみなさんと語り合った。

感想

- ユニバーサル美術館展は、触ったり、耳で聞いたりして、いつもの見るだけの美術館とは全く違った美術館を楽しめた。子どもならより興味いっぱい楽しめそうだし、大人もバリアフリーな空間で、みんなでワイワイ楽しめそうだと感じた。
- 五感を使い鑑賞できるような美術館が増えて欲しい。

## 「アートの日」交流会Ⅰ ー作品から子どもの世界を見る

日時 2019年2月13日 18:30~20:30

会場 徳島県立近代美術館ギャラリー 参加者数 3名

内容 子どもたちの作品を持ち寄り、子どもたちが何を感じ、何を表現しようとしていたか、じっくり話し合った。

感想

- インフルエンザの流行や行事と重なって参加者が少なかったのが残念。他の保育所やこども園の子どもの作品を見て、どのように指導しているか意見交換ができると、実践にとっても役立つと思う。

## 「アートの日」交流会Ⅱ ーこの一年間を振り返って

日時 2019年3月8日 18:30-20:30

会場 徳島県立近代美術館アトリエ 参加者数 20名

内容 楽しかったこと苦労したことなど、失敗談も含めて、「アートの日」の一年間の活動を振り返り、次年度に実践してみたいことなどについても話し合った。

## 就学前の子どもたちにアートの楽しさを届けるシンポジウム

美術教育・保育研究者の基調講演と「アートの日ー保育所と美術館の連携事業」に参加した保育士、保護者、アートイベントサポーター、美術館の教育普及担当者からそれぞれ発表を行い、子どもたちの成長にアートが果たす役割などについて意見交換を行った。

【日時】 2019年2月16日[土] 13:30~16:30

【会場】 徳島県立21世紀館 多目的活動室(1階)

【基調講演】 松岡宏明[大阪総合保育大学教授]

【シンポジウム】 宇田泰(徳島市立城西保育所)

岸上佐和子(「アートの日」を経験した保護者)

富林純子(当館アートイベントサポーター)

森芳 功(当館学芸交流課長)

【参加者数】 67名

【その他】 アートイベントサポーター5名

手話通訳 3名、要約筆記者4名

### 【参加者の声】

- ・基調講演で印象に残ったのは、鑑賞は主体的な活動だという話です。「こう思うという解釈の交流、互いを知る交流、お互いに尊重し合うことで楽しい活動になっている。」
- ・「アートは作品と見る人との間に起こるもの」という話が心に残った。
- ・保育者が子どもの造形をみる力がいかに必要となってくるか、また、絵は見えないものを見えるようにすることだということが、とても心に残りました。



シンポジウムの様子



対応はアートイベントサポーター  
会場内に設けた子ども席の様子



講師、発表者席



講師による基調講演